

## あるある研修 「イヤイヤの年頃？」

### ■ 主な内容

- ・ 9月のはじめ0、1歳児クラスの出来事です。
- ・ 1歳児のTくん、昼食の時に号泣しています。
- ・ 最近Tくんは思い通りにならないと自分で床にひっくり返って大きな声で泣くことが多いのですが、保育者が他の事に注意を引きつけて気を紛らせた環境を変えたりして気持ちを立て直していました。
- ・ わがまま泣きをどうにかしたいと保育者が考えていた矢先の号泣でした。
- ・ なぜ泣いていたのか？  
わがまま泣きは収まったのか？  
どんな対応で収まったのか？

### ■ 幼児と保育者のようす

保育者：さあ、ご飯たべよう！

Tくん：（いやいやをする。そしてデザートの皿を指さして要求する。）

保育者：ご飯食べたらね。

Tくん：（目の前の茶碗を押しやる。すでに半泣き。）

保育者：まず一口食べよう。

Tくん：（泣きながら拒否）

保育者：（スプーンを見せて）これ食べたら、ちょっとバナナ食べてみようか？

Tくん：（スプーンをよけて本格的に泣き始める）

保育者：じゃあもう終わりにしよう。

（食器を下げる）

Tくん：（床に倒れて号泣。周りの子ども達がびっくりするほどの泣きっぷり。）

保育者：食べられるようになったら自分で椅子に座ってね。（と食事を元に戻す）

Tくん：（号泣していても保育者の言葉を聞いている。しかし泣き止まず。）

保育者：（その場を離れて遠くから様子を見ている。）

Tくん：（周りを見て泣き止み誰もいなくなったところで、遊び始めそうになる）

保育者：もう泣いてないね。ご飯食べるの？

Tくん：（再び泣き出す）

保育者：ごま塩ご飯にする？（Tくんのご飯にごま塩をかけて再びその場を離れる）

Tくん：泣き止み、椅子に座り、一人で食べ始める。

保育者：そうだね！えらいね。（声をかける。）

（声をかけ続け食事を終わらせる）

ワークシート

■ 協議してみましょう

|                                   |
|-----------------------------------|
| ○ このように泣いて自分を押し通す子には、どんな対応をしますか？  |
| (個人思考)                            |
| (グループ・全体協議)                       |
| ○ イヤイヤの時期に対応する上で重要なポイントは何だと思えますか？ |
| (個人思考)                            |
| (グループ・全体協議)                       |

## 「イヤイヤの年頃？」

### ■ この園での取組

- 0、1歳のクラスと2歳のクラスがあって、一日の中で縦割りの遊びの時間や年齢ごとの活動をしている。
- その子に合わせた対応を心がけていて、今回のわがまま泣きについて対応も個々に合わせた対応になっている。
- ひとつの問題を職員全員で話し合ったり、時には保護者にも理解いただいたりして連携しながら問題を解決している。
- 家庭との連絡を密にと心掛けているので、わがまま泣きをしていた男児の保護者にその日の出来事と保育者の対応を話したら、「家庭での男児のイライラもイヤイヤ期だったのかと考えると合点がいった。成長の過程と考えると気持ちが楽になった。」と保護者から言われ、今後もそれぞれの家庭と子どもの成長を話していく。
- 0、1歳と2歳にクラス分けしているが個人のもっている力に合わせて1歳が2歳のクラスに入って活動する事もある。  
異年齢が同じ空間で過ごすことでお互いに良い影響を与えている。

### ■ ワンポイント

- 昨今は個々の対応が主流になっている。昔は月齢の目安、年齢の目標に向けて無理にでも到達させることが良いとされていた。今もまだ、この古い考えをもっている人もいるが、自園では個々の対応を大事にしているので個々の発達によっては3歳が0、1歳のクラスで過ごしたり（その子の成長のために家庭との話し合いを沢山持って納得してもらう）子どもを伸ばすために行っている。

## あるある研修 「野菜食べる？」

### ■ 主な内容

- ・ 1歳10ヶ月のM児
- ・ 言語の表現はまだない。
- ・ 園庭で作っている野菜には興味をもっている。
- ・ 給食の野菜は口に入れない。
- ・ 無理に食べるように勧めると、お皿をひっくり返すことがある。
- ・ 口に入った時の味が、好みの場合は食べ続けることもある。
- ・ 一度機嫌を損ねると、他の物も食べなくなることがある。

### ■ 幼児と保育者のようす

(昼食時、白いご飯を自分で食べ始めるMちゃん)

保育者：Mちゃん、おかずも食べてみる？

M 児：んっ！！(目をつぶって首を大きく横に振る)

保育者：大好きなにんじんだよ?! ちょっと食べてみない?!

M 児：(かたくなに口を開かずにいる。その後も黙々と白いご飯、味噌汁を食べ進める)

保育者：(少し様子を見ながら、時々おかずを勧め、断られると言うことを繰り返す)

M 児：(ご飯、味噌汁を全て完食してしまったMちゃん。お皿に残っているおかずをじーっと見つめる。)

保育者：1回食べてみる？(と、小さく小さくしたにんじんを口に運ぶ)

M 児：ぐっと目をつぶりながらぱくっと食べてみる

保育者：(その後の反応を何も言わずに見守る)

M 児：(好みの味だったようで、気がいたら完食している)

ワークシート

■ 協議してみましよう

○ 野菜に興味があるM児に、食事に対して興味をもってもらうには、どのような配慮が必要か。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 野菜を食べられるようにするための声掛けの仕方や食事時の工夫はどんなことがあるか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

## 「野菜食べる？」

### ■ この園での取組

- 食育の活動として、野菜が育つ過程を見る。
  - 野菜をどのように調理しているのか、調理の様子を見る。
  - 野菜スタンプで遊ぶ等野菜に親しむ。
  - 絵本を見て、食に興味をもてるようにする。
  - 食べたくないと言った時に、小さく切る、ご飯に混ぜるなどして、食べられたことに喜びをもてるようにし、食べることができた時に、周りの先生方が盛り上げ、気持ちも盛り上がるように配慮する（気持ちのサポートをする）。
  - 無理強いせず、食べることができる分だけ、別の皿に乗せるなど、視覚的に、子どもに目標をもたせる。
- ※ 「これだけ食べようね」と言った約束は守る、追加しない。

### ■ ワンポイント

- 家庭との連携を密に取り、園と家庭が同じように進めていくことができるようにどのように伝えていくと良いか考える。
- 食事に興味をもってもらうには、何ができるか考える。
- 食事の摂り方の工夫として、何ができるか考える。

## あるある研修 「キラキラな服」

### ■ 主な内容

- ・最近園ではスパンコールの着いた洋服、スカートやワンピースを着てくる子どもが増えている。
- ・この園では、日常的に外遊びをすることを保育者は把握している。
- ・子ども同士で着てきた服の話や服に付いているパーツを触り合うようなやりとりも見られるようになってきている。
- ・以下は7月の年少児の女の子のやりとりの様子。
- ・園生活にも慣れてきて友だちとの関わりが増えてきている。

### ■ 幼児と保育者のようす

(登園時の玄関)

園長：おはようAちゃん！

A 児：(泣きながら) やだやだ！この服じゃ幼稚園行かない！

保護者：もう朝からこの調子で…、今洗濯中のキラキラした服を着ていくって聞かなくて…

A 児：キラキラのお洋服みんなに見せたかったんだもん…

保育者：キラキラの服が良かったんだね。じゃあお部屋でお姫様のお洋服を作ってみる？

A 児：うん…(まだ元気のない様子)

(その後Aちゃんは、お部屋で冠を作りお姫様ごっこをして元気に遊んだ。しかし次の日…)

A 児：見てみて～今日はキラキラのお洋服を着てきたんだよ！！

B 児：私もキラキラなんだよ～仲間だね～！

C 児：Aちゃん、Bちゃん！お砂場で一緒にお団子作って遊ぼう！

A 児：え～、お洋服が汚れるから遊ばない！

(普段は意欲的に遊ぶAちゃんだが、ずっと園庭の隅に座ってほかの子が遊ぶ様子を見ているだけである。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

|   |
|---|
| ○ あなたならこの後どのような声かけ、対応をしますか？               |
| (個人思考)                                    |
| (グループ・全体協議)                               |
| ○ このような様子が園全体でよく見られる時に、園としてどのような対応を考えますか？ |
| (個人思考)                                    |
| (グループ・全体協議)                               |

## 「キラキラな服」

### ■ この園での取組

- 各クラスで子ども達に幼稚園には何をしに来ているのかを問いかけ、思い切り遊ぶ時にはどんな服が望ましいかを子ども達自身が考える場を設けた。
- また、友達に見せたいがため、仲間になるために、服や自分の所持品を買ってもらおう事についても話し合いをした。
- 自園は遊びを中心にした保育の「遊学教育」を理念としているため、入園前の説明会や入園後も度々手紙や説明会で、保護者にも啓発を続け、遊びを中心にした生活に集中させたいことを伝えた。
- 華やかな服や、スカートやスカッツ、丈の長いチュニックなど遊び活動を妨げる服装はやめてもらうよう伝えた。  
また、そのような服は、各家庭のお出かけの際にするよう子ども達にも意識させた。  
園児の所持品や園指定のバッグにつけるキーホルダーは目印のために許可していたが、トラブルの原因となり教育的に不必要であると考え、やめることとした。  
子ども達にも同じような話をしたことで、保護者と子どもが、遊びを中心とした生活に意識を持つよう配慮した。

### ■ ワンポイント

- 子どもの思い（服装、持ち物、好き嫌いなど）に際限なく従ってしまう様子が見られる家庭に対し、どのようなアドバイスができるか考えてみましょう。また、園でできる対応、関わりなども考えてみましょう。
- 園児の個人的な課題なのか、園全体での課題なのかを職員で話し合い共通理解を図る。また、園として何をどう課題ととらえ、子どもの遊び中心の生活に必要なもの unnecessaryなものは何かを職員全体で共通理解を図ってみましょう。

## あるある研修 「絵本の読み聞かせ」

### ■ 主な内容

- ・ 毎日読んでいる絵本の中でただそこにある本を読むのではなく、思いを伝えたい本を吟味して選び、一ヶ月間子ども達に読み聞かせる。
- ・ そこでどういった変化が生まれるか。
- ・ 子ども達の様子を観察し発表する。

### ■ 幼児と保育者のようす

ある日の午睡前本読みの時間…

保育士：今日はこの本を読みます（めっきらもっきらどーんどん）

1日目 黙って聞いている

2日目 またこの本かと言いながら子ども達聞いている

3日目 とうとう「ちんぷくまんぷく…」の場面を保育士と一緒に  
歌い出す

4日目 おたからまんちんからもらったお宝にうつった海がきれ  
いな事に気づいた

縄跳びをしながら、ぴょーんぴょんと言いながらなりきっ  
て遊び始めた

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 読み聞かせから子ども達の遊びが広がってきたとき、保育士はどのように発展させていくか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 他のクラスでも子ども達の好きな絵本を読み聞かせてみる。担任以外が関わるときの配慮や工夫は何か？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

## 「絵本の読み聞かせ」

### ■ この園での取組

- 年長クラスでの取り組み、3歳児のころから、この本に触れてきた。
- お泊まり会ではこの本を題材にし、進行する。それぞれのキャラクターから手紙が届いた、縄跳びに挑戦したり泣かずに冒険をしたりするように指示が書いてあったりし、子ども達とめっきらの世界へイメージを膨らませながら過ごした。  
お泊まり会終了後には縄跳びのプレゼントが届いた。
- そのプレゼントを持って散歩に出かけた。園庭でも音楽に合わせて縄跳びを行い、とても上手になった。その様子を運動会でみてもらい沢山の拍手をもらった。終わった後の子ども達の様子は、とても誇らしげで自信に繋がったように見えた。
- もっとイメージが膨らむように、部屋におたからまんちんの宝に見立てたポールや木の穴のようなものを子ども達と作り、ごっこ遊びを楽しんだ。
- 穴に入り吸い込まれていくときの音などの効果音をつけることで、子ども達の遊びは更に深まっていった。
- 発表会では、ごっこ遊びの延長を劇仕立てにし、保護者に披露した。保育士と子ども達とで作り上げたものだったので、自分たちで動き、生き生きとしていた。
- 担任は子ども達のイメージしていく変化を感じ環境づくりをし、思いに寄り添っただけだったが、結果、ひとつの絵本から年長の一年を通して楽しむことができた。

### ■ ワンポイント

- クラスで今、何が行われているか、子ども達とのイメージを共有してもらうため、他の職員にも伝える。
- 保護者にも、本の紹介をしたりし、発信していく。
- 保育士は無理強いせずに子ども達と一緒に楽しむ環境づくり等工夫をする。

## あるある研修 「勝っていても負けていても」

### ■ 主な内容

- ・ 運動会に向けての練習が始まった8月末の5歳児の出来事。
- ・ 全園児でリレーの活動中、年少→年中→年長の順でバトンが渡り、白組が負けている状態で白組のA君にバトンが渡る。
- ・ バトンを受け取り、トラックの4分の1を過ぎたあたりでA君は負けていることに怒り、バトンを投げ、走るのをやめてしまう。
- ・ 担任が慌ててバトンを拾い、A君と手をつなぎ、次の子へバトンを渡すため一緒に走る。
- ・ A君は年中児の時も同じようなことをしており、他の活動でも気に入らないことがあると怒ったり暴れたりすることがあった。
- ・ このままではA君にとっても他のクラスメートにも良くないと思い、担任はクラスの子ども達全員で話し合うことにする。

### ■ 幼児と保育者のようす

- 担任：今日もみんな運動会の練習を頑張っていたね。どうだったかな？
- 幼児：楽しかった！
- 担任：リレーはどうだった？
- B児：ちょっと残念だった…
- 担任：何が残念だった？
- B児：A君が途中でバトン投げちゃったから。
- 担任：そうだね。途中でバトン投げて走ることをやめたらどうなっちゃうかな？
- C児：負けちゃう
- D児：待っているお友達が困っちゃう
- 担任：そうだよね。リレーは年少さん、年中さん、年長さん全員でバトンをつないで最後まで諦めないで走るから、アンカーのお友達がゴールするまで勝ち負けはわからないよね。A君、みんなはこう言ってるけど、どう思う？
- A児：（怒って下を向いている）
- 担任：負けるのが悔しいのもわかるし、勝ち負けも大切かもしれないけど、先生はみんなで力を合わせて、待っているお友達のために最後まで一所懸命走ることが大切だと思うんだ。それができないとリレーや運動会には参加できないと思うんだけど、どうかな？
- A児：…できる。
- 担任：A君も頑張れるって言ってるから、みんなもA君のことを応援してくれる？
- 幼児：うん！応援する！
- ※ その後、全員がA君のことを応援するようになり、A君は勝っていても負けていても諦めることなく一所懸命取り組むようになった。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 保育者が、Aくんや他のクラスメートに願っていたことは何ですか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ もしあなたの園でも同じようなことがあった場合、あなたならどのように対応しますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

## 「勝っていても負けていても」

### ■ この園での取組

- 自由遊びの際は、学年関係なく遊んでいる。そのため保育者も学年関係なく全園児と関わることができる。
- 1学年1クラスずつのため、卒園までクラスが変わらないことから、子ども達同士が友達のことを理解している。
- 運動会はリレーも含めて、全園児で取り組む競技が多いため、運動会に向けて子ども達同士の関わりがより密になる。そのため、みんなを応援しようとする気持ちが芽生える。
- 年長児になり、子ども達同士で話し合う機会を増やし、自分の意見を言える機会を設けたことで、意思を表現できるようになってきた。
- 今回の事例は、今まであった出来事の中の一部で、まだまだ課題は多いが、今後もより信頼関係を深めて、子ども達に寄り添うことが大切だと感じた。

### ■ ワンポイント

- 自園の教育方針から鑑み、子どものトラブルについて保育者はどのような立場で子ども達に接するのが好ましいのか考えてみてください。
- 自園の運動会の活動と照らし合わせて、勝って嬉しい、負けて悔しいという気持ちは受け止めながら、どのように前向きに進めていくかを考えてみてください。

## あるある研修 「初めての経験」

### ■ 主な内容

- ・ 9月末
- ・ 歯がグラグラしてきたことが気になり、活動に集中できなかつたり、給食が進まなかつたりしていたAくん。
- ・ 鏡で何度も見て、自分で触ってみるが…

### ■ 幼児と保育者のようす

(登園し、口を開けて教師に見せながら…)

Aくん：おはよう～！歯がグラグラしてきた！

保育者：Aくん、おはよう！わ！ほんとだ！もう少しで抜けそうだね！

Aくん：うん！痛くないけどね。

(朝の支度を終え、園庭に遊びに行く。)

(活動に参加はできるが、歯が気になり教師が傍らに行くと話しかけたり、見せたりする。)

(給食中)

Aくん：歯が気になって食べられないよ～

保育者：どれどれ、もう抜けそうだねえ～

Aくん：自分で抜くのは難しいな～

保育者：抜いてすっきりしたらご飯も食べられるんじゃない？

Aくん：うん

(気になって歯をいじっているAくん)

Aくん：うわっ 抜けた！

保育者：よかったね～がんばったね～

幼児達：見せて！見せて！

(Aくん、嬉しそうに友だちに見せに行く)

保育者：なくならないように、連絡帳に貼っておくね！

Aくん：ちょっと貸して

(歯が貼られている連絡帳を持ち歩きながら、抜けた歯を眺めている)

保育者：なくなったら困るから、机に置いておいたら？

(連絡帳を開いて置き、見やすいようにおしぼりや箸ケースを使って立てかけている)

(給食後、降園するまで連絡帳を持ち歩き嬉しそうに教師に見せたり、眺めたりしているAくんでした)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ Aくんが何度も歯を教師に見せに来たことには、どのような意図があったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 体の変化や、成長についての対応や指導の際に、気をつけていることは何ですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

## 「初めての経験」

### ■ この園での取組

- 成長による体の変化を喜んだり、不安に感じたりする子がいるため、気持ちを受け止めて子どもの意思を尊重した対応をする。
- 「〇〇ちゃんはもう歯が抜けているのに…。」「〇〇くんは逆上がりができるのに…。」など、他者と自分を比較する場面があるが、個人差があることや、劣等感を感じてしまわないように、個々に合わせた対応を心掛けている。
- 食事中にAくんは、抜けた歯（連絡帳に貼られた）を持ち歩いていた。持ち歩くことで、連絡帳の紛失の恐れと、食事中に立ち歩くことに抵抗があったが、歯が抜けた喜びをかみしめている様子を見て、その時の感情を大切にしたいと考え、連絡帳を目の前に置いて見ることを教師が提案した。子どもの意思や気持ちを大切にしたいかかわりを心掛けている。

### ■ ワンポイント

- 痛みを伴うため、個々の様子に合わせて対応を行う。
- 保護者に、歯が抜けた時やその後の状況を説明する。

## あるある研修 「塩ビ管を繋げて水を流したい」

### ■ 主な内容

- ・ K児～3月生まれの3歳児男子
- ・ 入園より2ヶ月過ぎた6月の遊び
- ・ 園庭ではホースや塩ビ管を使って、水や砂遊びをしている年中、年長児がいる
- ・ 年中・年長児の様子をじーっと見ている
- ・ 別の場所で塩ビ管を繋げて水を流すがうまく流れない
- ・ 上手くいかず保育者に援助を求める
- ・ 話し始めるとひらめくK児、その方法を一緒に試してみるがうまくいかない…
- ・ 年中・年長児に聞いてみて再び試してみるが…

### ■ 幼児と保育者のようす

(今日も砂場で塩ビ管を組み立てホースの水を流す年中・年長児がいる)

K 児：(じーっとその様子を見つめている)

保育者：(その様子を見守る)

(塩ビ管を数本選び、砂場へ運び繋げるがうまく水が流れない)

K 児：あれー？おかしいなあ。どうしようかなあ

(と年中、年長児の塩ビ管と保育者の顔を見比べる)

K 児：あ！そうだ！こうしたらいいんじゃない！

(と大きな声でつぶやき試してみるがうまくいかない)

保育者：どうしたらいいかな？

(しばし考えるK児)

保育者：大きいお友達に聞いてみようか？

K 児：繋げるのどうしたらいい？と年中児に聞きに行く

(年中児と一緒に塩ビ管を取りに行き、自分で繋げてみるがうまくいかない)

K 児：先生やってー

保育者：一緒にやってみようか

(うまくつながり水が流れると)

K 児：出た出た！！

保育者：ほんとだ！

K 児：すごいね！！

水流れたね

(年中・年長児と同じように水を流せたことに大満足のK児でした)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 年中・年長児に聞いてみるよう促したことにはどのような意図があったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ “幼児の気付き”を成功体験に結び付けてあげたい時にはどのように関わっていくことが必要になると思いますか

(個人思考)

(グループ・全体協議)

## 「塩ビ管を繋げて水を流したい」

### ■ この園での取組

- 安心安定した気持ちで、自分の興味ある遊びを見つけ関わって  
いけるような援助や環境構成を心掛けている。
- 自ら選ぶ活動については、教師の”直接的な援助”だけではなく、  
年中・年長児の経験を生かした“間接的な援助”も大切にしている。
- 本人なりの試行錯誤の過程を、丁寧に捉えていきたいと考えて  
いる。
- 幼児の姿や発する言葉だけを捉えるのではなく、内面理解が  
出来るように努めている。

### ■ ワンポイント

- 幼児の発した言葉から、心の中（内面理解）を探ってみましょ  
う
- 入園間もない幼児が、より主体的に環境に関わっていくためには、  
どんな環境構成が必要になっていくでしょう

## あるある研修 「虫が嫌い」

### ■ 主な内容

- ・ 6月12日  
月の初めに保育室のプランターにキャベツの苗を植えたところ、小さな卵があるのを一人の女の子がを見つけました。それを担任の先生が飼育ケースに入れ保育室に置きました。
- ・ 6月15日  
子どもたちが、キャベツを見ているとなんと卵からアオムシが出てきました。その日からクラスで虫観察が始まりました。
- ・ 6月29日  
昨日より大きくなっているね（本当はほとんど変化なし）毎日観察する中で、「気持ち悪い」と言っていた女の子も興味をもってそっと覗くようになりました。
- ・ 7月2日  
「アオムシがいっぱいうんこしている！」いつも担任がしていた虫かごの掃除を進んで子どもたちがやってくれました。アオムシから糸が出ているのを見て、「もう少しでサナギ」と書いて貼ってくれる子もいました。
- ・ その後  
無事に蝶になるまで見届け、グラウンドでお別れをしました。

### ■ 幼児と保育者のようす

#### 《保育者の配慮》

- ・ キャベツを植えた時から、アオムシが卵を産んでくれないかなと野菜より飼育を楽しみにしていた担任です。
- ・ 予定通り卵を産み付けられてからは、飼育係として大切にお世話をする以外は、様子を見守っていました。
- ・ 子どもたちの様子はドキュメンテーションで保護者に伝えました。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 虫の飼育で10の姿に関わることはどのようなことだと思いますか

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 虫を怖がったり、殺したりするときの対応としてあなたが大切にしていることはなんですか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

## 「虫が嫌い」

### ■ この園での取組

- 暖かい時期になって出てくる、土の中に住むいろいろな虫を捕まえ観察をする。
- 観察キットなども購入し利用する。
- 虫網、虫かごなど手作りでできるものは、子どもの発想を活かして作ってみる。
- 絵本などを利用する。
- 無理強いしない。
- 身近な存在として意識できるようにする。

### ■ ワンポイント

- どうしてそう思うのか、気持ちを理解し寄り添う。
- 身近な存在になるように環境を整える。